第10講座 古文(1)

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

昔、*1孫叔敖といふ人、幼少の時に、外へ出でて遊びければ、二つの頭のある*2蛇を見たり。日本にいふ*3日ばかりのたぐひなるべし。*4その時に、その子の母が、「なんぢはいかなる子細ありてか、かくものを食はずして泣くぞ。」と問ひけるほどに、叔敖こたへていはく、「今日われ両頭の蛇を見ければ、明日まで命を延ぶべからず。」と言ひけるを、母もとより世にすぐれたる人なれば、ほかの事を聞き入れずして、まづ「その蛇はいづちにかある。」と問ふ。叔敖がいはく、「両頭の蛇を見るものはかならず死すと、日ごろより聞きおよびしゆゑに、他人のまたこれを見ん事をおそれて、地に埋みける。」と言ふ。母、この言を聞きていはく、「うれふることなかれ。なんぢは死ぬまいぞや。そのゆゑは、人として*5陰徳あれば陽報あり、天はたかけれども、ひきき地のことをよくきけり、徳は*7不祥にかち、仁は百禍をのぞく、といふ事あれば、なんぢは死せぬのみならず、あまつさへ楚国に*8おこらん。」と言ふ。成人してのちに、はたして*9令尹といふ官人になれり。

（『実語教童子教諺解』）

*1孫叔敖＝楚国の人。　*2蛇＝へび。
*3日ばかり＝小形の蛇。かまれたらその日ばかりの命しかないと信じられたことからこの名があるが、実際は無毒。
*4その時＝家に帰った時。　*5陰徳＝隠れたよい行い。
*6陽報＝明らかな良い報い。　*7不祥＝よくないこと。
*8おこらん＝出世するだろう。　*9令尹＝楚国の最高位の大臣。

問一 文中から抜き出した次の語句のうち、歴史的かなづかいと現代かなづかいが同じものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア なんぢはいかなる　イ 問ひけるほどに
ウ こたへていはく　エ 聞き入れずして

問二 ——線①「ものを食はずして泣くぞ」とありますが、泣いている理由として最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 明日もかならず蛇に襲われると思ったから。
イ 自分のせいで母親が命を落とすと思ったから。
ウ 自分は間もなく死んでしまうと思ったから。
エ 蛇が長くは生きられないだろうと思ったから。

問三 ——線②「地に埋みける」とありますが、叔敖がこのようにしたのはなぜですか。現代語で二十五字以内で書きなさい。

問四 この文章の内容と合っているものを次のうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 叔敖は優れた人格を持っていたので出世した。
イ 叔敖は蛇の恩返しのおかげで大臣になった。
ウ 叔敖は母の言いつけを守ったので出世ができた。
エ 叔敖は蛇を退治した功績によって高い地位を得た。

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

*1左近将監源乗邑朝臣、東の*2執事職にて勢ひ猛なりし頃、都へ登るとて*3近江の国草津と云ふ所を過ぐるに、此所の姥が餅といへるは、昔より①名高き家にて在りしを、そこに立ち寄りて、いささか旅の疲れを休められけるに、内より例の姥出づるを見れば、齢七十に近きが、腰は蝦のやうにかがまり、黒き顔に白き髪のかかりたるを、片手にてかきやりつつ、古き高坏*4の欠け損じたるに、餅を盛り入れて捧げ出でたり。「②此の餅は清きか。」と問はれければ、姥面をふり上げて、③殿には目をふさぎてきこしめせ。世の中に何かきたなきものは侍らん。あまりにふかく求むれば、清きと申す物は候まじといひしかば、賤しき姥なれども、かしこくも我を諫めけるかなと、④深く感ぜられしとぞ。

（『落栗物語』）

*1左近将監源乗邑朝臣＝松平乗邑。左近将監と称した。「朝臣」は、敬称。

*2執事職＝官職名。

*3近江の国草津＝現在の滋賀県草津市。

*4高坏＝平皿に高い脚を付けた食器。

*5諫めける＝いましめた。

問一 ——線①「名高き家」とありますが、どんなことで有名なのですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 位の高い客が来ること
イ おいしい餅を出すこと
ウ ゆっくりと休めること
エ かしこい姥がいること

（　　）

問二 ——線②「此の餅は清きか」とありますが、源乗邑がこのように姥に聞いた理由として最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 姥の白い髪が餅に入っていることに気がついたから。
イ 姥が餅に古い食器のかけらを付けて出してきたから。
ウ 姥の様子や持参した食器が不潔な感じがしたから。
エ 姥が自分を利用するために餅を出したと思ったから。

（　　）

問三 ——線③「きこしめせ」の現代語訳として最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 召し上がれ　イ お聞きなさい
ウ 催しなさい　エ お休みなさい

（　　）

問四 文中に姥の語っている部分があります。その初めと終わりの三字を書き抜きなさい。

［　　］～［　　］

問五 姥の語っていることは、どんなことですか。現代語で簡潔に説明しなさい。

（　　）

問六 ——線④「深く感ぜられし」とありますが、源乗邑はどんなことに感動したのですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 他人への悪行は隠してもすぐ明らかになるということ
イ 老人の主張に同調すると思わぬ失敗をするということ
ウ 何事も深く求めないと真理には到達しないということ
エ 賤しい姥でも道理にかなった忠告をするということ

（　　）

総合問題(1)

得点　　100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

そのころは日課として小説を書いている時分であった。飯と飯の間はたいてい机に向って筆をにぎっていた。静かな時は自分で紙の上を走るペンの音を聞くことができた。*1伽藍のような書斎へは誰も入ってこない習慣であった。①筆の音にさびしさという意味を感じた朝も昼も晩もあった。しかし時にはこの筆の音がぴたりとやむ。またやめねばならぬおりもだいぶあった。その時は指の股に筆をはさんだまま手の平へあごをのせて硝子越しに吹き荒れた庭を眺めるのが癖であった。それがすむとのせたあごを一応つまんでみる。それでも②筆と紙がいっしょにならない時は、つまんだあごを二本の指で伸してみる。［Ⅰ］縁側で文鳥がたちまち「ちよちよ」と二声鳴いた。

筆を置いて、そっと出て見ると、文鳥はわたしの方を向いたまま、止まり木の上から、のめりそうに白い胸を突き出して、高く「ちよ」といった。わたしはかごの傍にしゃがんだ。文鳥はふくらんだ首を、二、三度縦横に向け直した。やがて一かたまりの白いからだが、ぽいと止まり木の上を抜け出した。（A）と思うと、きれいな足の爪が、半分ほど餌壺の縁から後ろへ出た。小指を掛けてもすぐひっくり返りそうな餌壺は、つり鐘のように静かである。（B）なんだか淡雪の精のような気がした。文鳥はつとくちばしを餌壺のまん中に落とした。そうして、二、三度左右に振った。きれいにならして入れてあった粟が［Ⅱ］かごの底にこぼれた。文鳥はくちばしをあげた。のどの所でかすかな音がする。また、くちばしを粟のまん中に落とす。また、かすかな音がする。その音がおもしろい。静かに聞いていると、丸くて細やかで、しかも非常にすみやかである。③菫ほどの小さい人が、④黄金の槌で⑤瑪瑙の碁石でもつづけざまにたたいているような気がする。くちばしの色を見ると、紫を薄く混ぜた紅のようである。その紅がしだいに流れて、粟をつつく口先のあたりは白い。象牙を半透明にした白さである。このくちばしが、粟の中へはいるときは、非常に早い。左右にふりまく粟の珠も、非常に軽そうだ。（C）かごの底に飛び散る粟の数は、幾粒だかわからない。それでも、餌壺だけは、*2寂然として静かである。（D）重いものである。わたしは⑥そっと書斎へ帰って、ペンを紙の上に走らせることにした。縁側では文鳥が「ちち」と鳴く。おりおりは「ちよ、ちよ」とも鳴く。外では木枯らしが吹いていた。

（夏目漱石『文鳥』）

＊1伽藍＝僧たちが仏道を修行する寺院の建築物のこと。
＊2寂然＝静かなさま。

問一 〰〰線㋐～㋔の漢字の読みをひらがなで書きなさい。（4点×5）

㋐ れた	㋑ く
㋒	㋓
㋔	

問二 ［　　］Ⅰ・Ⅱにあてはまる言葉として最も適当なものを次のうちから選び、それぞれ記号で答えなさい。（6点×2）

Ⅰ　ア　だから　　イ　しかも
　　ウ　または　　エ　すると

［　　］

Ⅱ
ア　そろそろと　　イ　はらはらと
ウ　きらきらと　　エ　はたはたと

問三　この文章には、次の一文が抜けています。文中に戻すとすると、（　）A～Dのどこに入れるのが最も適当ですか。記号で答えなさい。（8点）

さすがに文鳥は軽いものである。

問四　――線①「筆の音にさびしさという意味を感じた」とは、どういうことですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。（10点）

ア　ひっそりと静かな場所で使う筆からは、さびしそうな音が出ていたということ
イ　筆の音が聞こえるほどの静けさの中に一人でいることを、さびしく感じたということ
ウ　小説を書くことに集中できず、自分で使う筆の音がさびしく聞こえたということ
エ　もうしばらくすると筆が進まなくなることが予感され、さびしい思いになったということ

問五　――線②「筆と紙がいっしょにならない」とは、どういうことですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。（8点）

ア　ペンのインクが紙の上でかすれてしまうということ
イ　手が疲れてしまってペンを持てないということ
ウ　体を動かしたいという思いが頭を離れないということ
エ　小説を書き進めることができないということ

問六　――線③「菫ほどの小さい人」、④「黄金の槌」、⑤「瑪瑙の碁石」は、何をたとえたものですか。それぞれ文中の言葉を使って書きなさい。（6点×3）

③
④
⑤

問七　――線⑥「そっと」には、「文鳥」に対する筆者のどんな気持ちが表れていますか。次の〔　〕にあてはまる言葉を書きなさい。（完答12点）

文鳥を〔　　〕という〔　　〕気持ち

2　次の――線部を正しい敬語表現に直して書きなさい。（4点×3）

(1)　あなたはコーヒーと紅茶とどちらにいたしますか。
(2)　わたしの母がお宅にお行きになります。
(3)　校長先生が教室に来た。